

# 福島第一原子力発電所 従事者の被ばく線量全体概況について

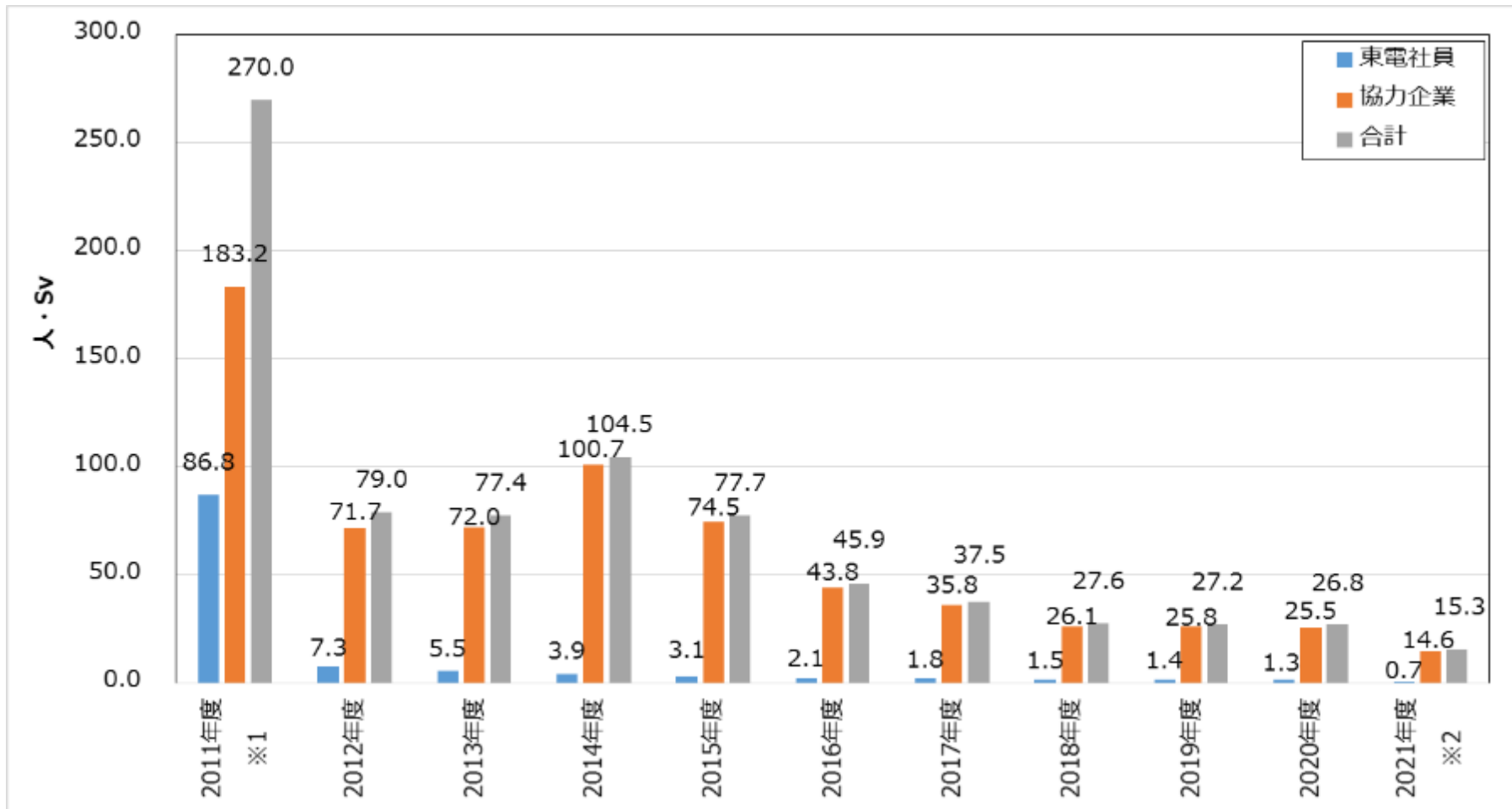
2022年2月7日

---

東京電力ホールディングス株式会社

## ①発災以降の年度別外部被ばく線量の低減状況（総実効線量）

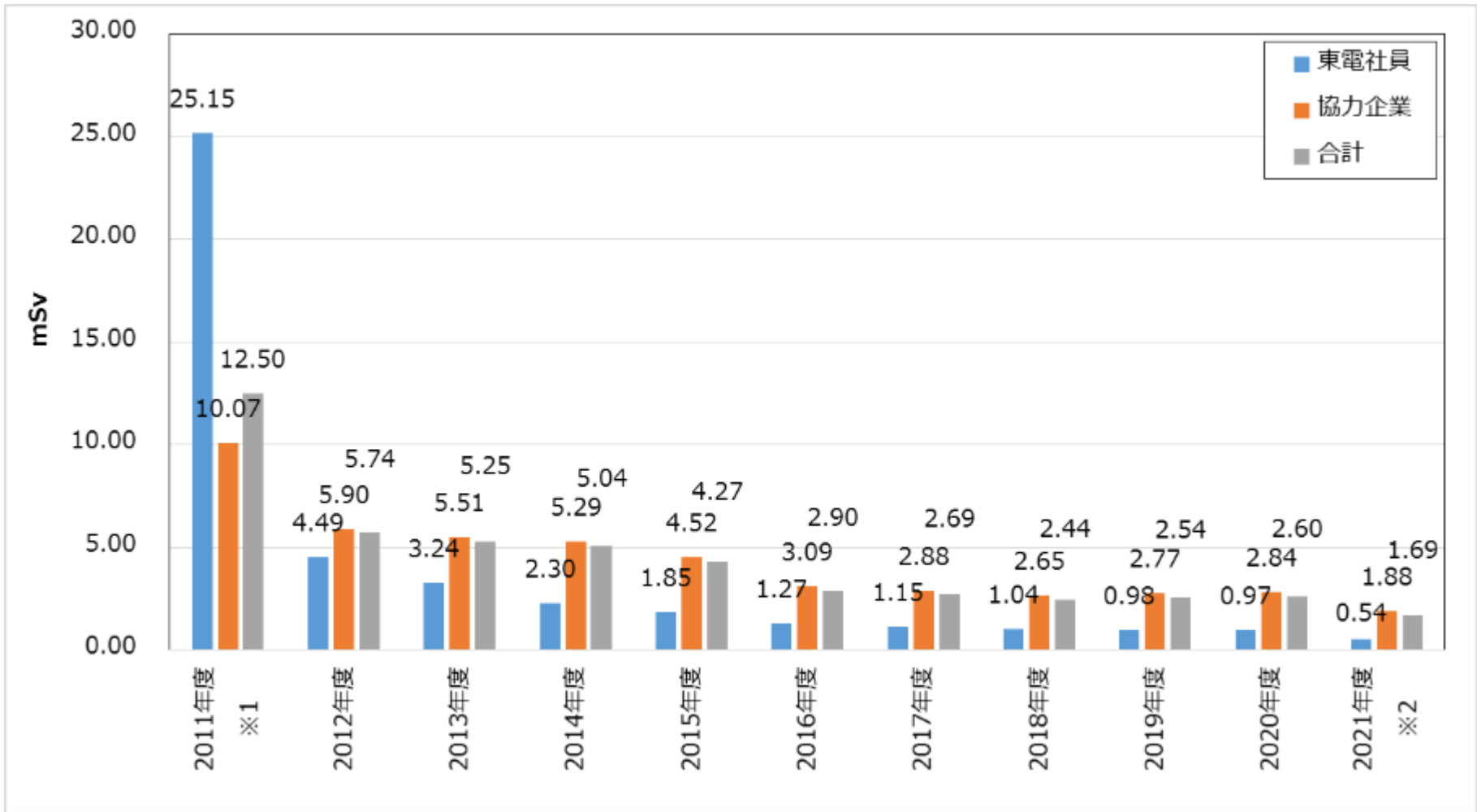
■ 総実効線量は年々低下しているものの、前年とほぼ同等で推移している。



※1：2011年度は2011年3月を含む

※2：2021年度は11月迄の確定値

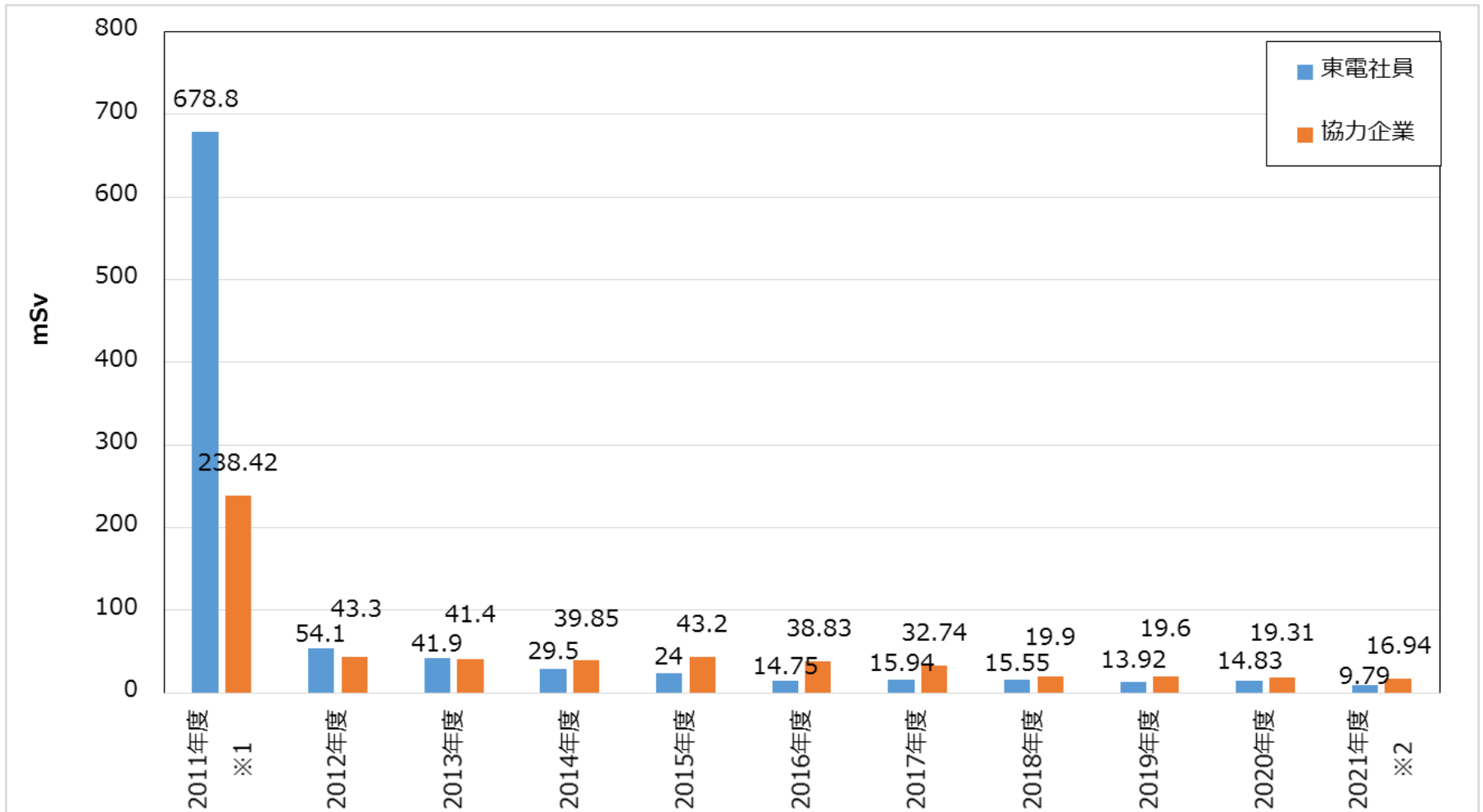
## ②発災以降の年度別外部被ばく線量の低減状況（平均線量）



※1：2011年度は2011年3月を含む

※2：2021年度は11月迄の確定値

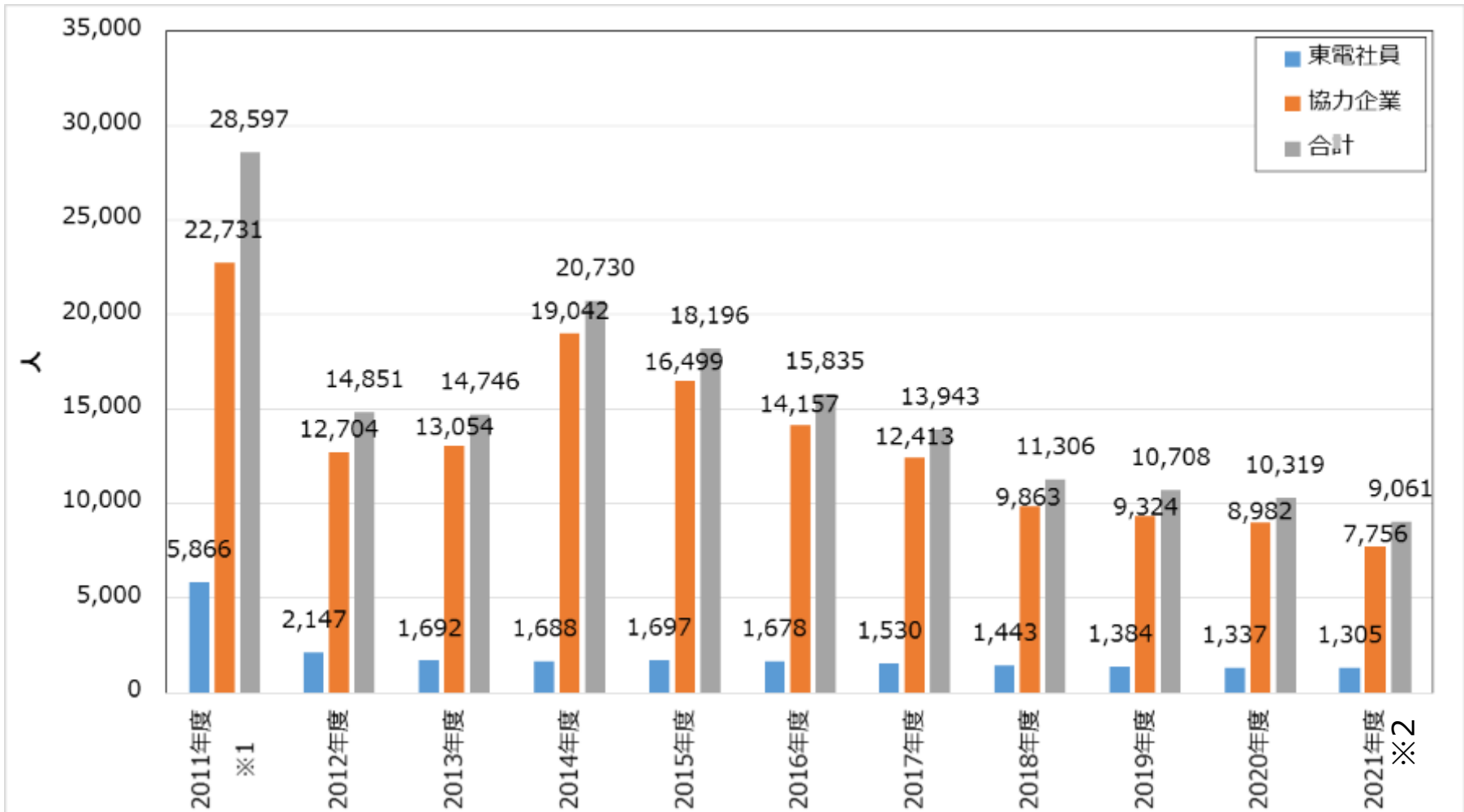
### ③発災以降の年度別外部被ばく線量の低減状況（最大線量）



※1：2011年度は2011年3月を含む

※2：2021年度は11月迄の確定値

## ④発災以降の年度別放射線業務従事者数



※1：2011年度は2011年3月を含む

※2：2021年度は11月迄の人数

## ⑤放射線業務従事者の累積外部被ばく線量 2021年度分

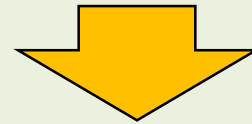
区分(mSv)	2021.4月～2021.11月		
	東電社員	協力企業	計
100超え	0	0	0
75超え～100以下	0	0	0
50超え～75以下	0	0	0
20超え～50以下	0	0	0
10超え～20以下	0	281	281
5超え～10以下	26	668	694
1超え～5以下	165	2,056	2,221
1以下	1,114	4,751	5,865
計	1,305	7,756	9,061
最大(mSv)	9.79	16.94	16.94
平均(mSv)	0.54	1.88	1.69

○2021年度（2021.4月～2021.11月）に作業実績のある9,061名のうち

9,061名（100%）は50mSv以下

9,061名（100%）は20mSv以下

8,086名（89.2%）は5mSv以下



○全ての作業者について被ばく線量は線量限度内(50mSv/年)で管理。

○2011.10月以降、有意な内部取り込みは認められていない。

## ⑥2021年4月1日を始期とする5年間の累積外部被ばく線量

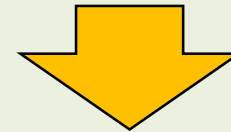
区分(mSv)	2021.4月～2021.11月		
	東電社員	協力企業	計
100超え	0	0	0
75超え～100以下	0	0	0
50超え～75以下	0	0	0
20超え～50以下	0	0	0
10超え～20以下	0	281	281
5超え～10以下	26	668	694
1超え～5以下	165	2,056	2,221
1以下	1,114	4,751	5,865
計	1,305	7,756	9,061
最大(mSv)	9.79	16.94	16.94
平均(mSv)	0.54	1.88	1.69

○2021.4～2021.11に作業実績のある9,061名のうち

9,061名 (100%) は100mSv以下

9,061名 (100%) は50mSv以下

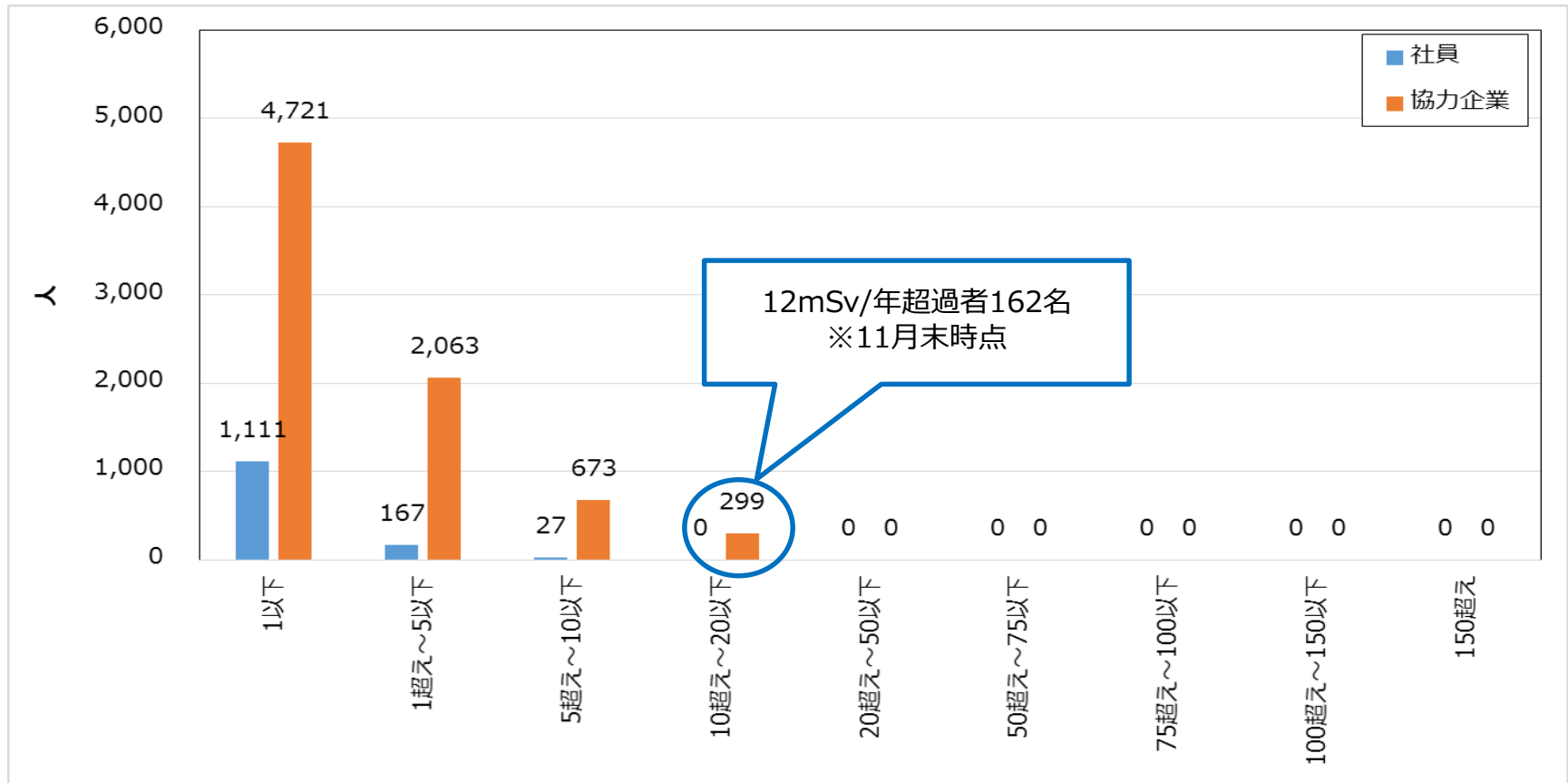
9,061名 (100%) は20mSv以下



○全ての作業者の被ばく線量については、100mSv/5年の線量限度を超えないよう、発電所では80mSv/5年の管理をしている。

## ⑦眼の水晶体 累積等価線量分布（2021年度）

- 2021年度の眼の水晶体の最大線量は，17.12mSv
- 眼の水晶体の等価線量が12mSv／年を超える作業を計画した段階，または超えたことが確認された段階で，眼の水晶体の等価線量を，眼の水晶体近傍（又は頭頸部）で測定する。

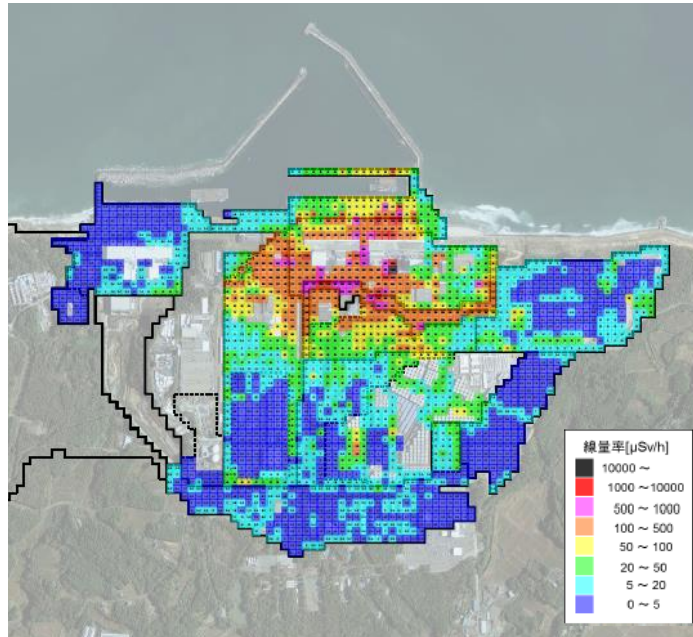




## ⑧環境線量率の低下

- 構内の環境改善によって、構内全域にわたって環境線量率が低下している。  
2020年度時点で、構内の約96%が全面マスク着用を不要とするエリアとなっている。

2014年度



※ 空白部分は未測定エリア

2020年度

